

# 協働事例MAP

協働による5つのテーマの「市民事業」を掲載しています。

健康福祉 農業 商業 環境 地域活性

※ここにいる市民とは、吹田市自治基本条例における市民の定義と同様に、住民や地域諸団体だけではなく、市内で活動する事業者や企業も市民としてとらえています。

MAP

## 事例1 地域の幸せづくりに貢献する専門店街!

### 北千里地域交流研究会

住民ニーズを把握するため、「地域の幸せづくりに貢献する専門店街」をコンセプトに、地域コミュニティとの連携を図っています。

毎月1回、近畿大学の久隆浩教授をアドバイザーに迎え、地域住民や諸団体と地域活性化のための情報交換の場である「地域交流研究会」を作り、14年以上、毎月開催が続いています。この地域交流研究会では、地域や学校などが困っていることをキャッチアップすることができ、参加者の活動の原点となっています。

みんなのアイデアを具体化する仕組みとして「ゆめシル事業」(地域で活動している団体の週単位の通常の5倍)を行っています。他にも、子どもの見守りや駆け込み寺となる「こども110番」への登録、FM千里と連携した「北千里アワー」の発信、音楽イベントの開催等、幅広い取組みを支援しています。

地域と結びついた、多世代交流の場となる、そんな商店街をめざしています。色々な「人」「もの」「お金」の情報が飛び交うことにより、地域を幸せにするつながり(ユニット)が、地域交流研究会から生まれています。

事例の詳細をご紹介!アクセスはコチラへ→  
<http://suita-koueki.org/kitasenri01/>

## 事例3 千里ニュータウンの絆を育む、特別な夜!

### 千里キャンドルロード

毎年秋に千里ニュータウンの公園で開催されているアートイベントです。平成24年に行政が主催した「千里ニュータウンまちびらき50年」事業の一つとして始まり、翌年には、有志で団体を立ちあげ、イベントを実施しています。

当日は、毎年、1,000人以上のボランティアが集まり、千里ニュータウンの人口と同じ9万個のキャンドルが並べられ、ロウソクに火が灯されます。千里ニュータウンに関わる市民、NPO、事業者・商店、行政等、様々な人達の協力でつくりあげる参加型のイベントとなっており、千里ニュータウンの幻想的な一夜を演出するものとなっています。

イベント開催の半年前から千里ニュータウン各地のお祭りやイベント、学校、保育所に出向き、当日使用するキャンドルのキャップづくりをしてもらっています。キャップには絵やメッセージを書いてもらい、会場に設置します。

当日は、千里ニュータウンに関わる多様な人達がボランティアとして集まり、キャンドルを点灯する活動を通じて、千里ニュータウンの絆を育んでいます。

事例の詳細をご紹介!アクセスはコチラへ→  
<http://suita-koueki.org/candleoad03/>

## 事例5 自分たちが働くまちをほっとけない! 企業自治会!

### 江坂企業協議会の取組み

江坂の「企業自治会」として生まれた団体です。前身は、昭和49年5月に発足した地下鉄江坂駅南改札口開設促進会ですが、平成6年5月に名称を江坂企業協議会に変更し、江坂駅周辺の多くの企業・事業所が加盟しています。

地域社会と企業間の親睦と融和を計り、地域の発展促進を目的として、地区内の美化(一斉清掃、アドプト・ロード)、路上駐輪・駐車対策の他、防犯活動(青色防犯パトロール)やイベント(音楽フェスティバル等)への参加等、多様な活動を行っています。

地域の企業、事業所が連携して取組みを行っている先駆的な事例で、組織は任意団体として運営しています。この明日にも解散できる緩やかなつながりが、各企業・事業所が、主体性を持って、自由な発想で取組む要因となっています。

「自分のまちの環境を良くしたい」という想いは市民も企業・事業所も同じ。「まちの安全を自分たちの手で、」

事例の詳細をご紹介!アクセスはコチラへ→  
<http://suita-koueki.org/esakacom05/>

## 事例6 がんに関する情報を届け、地域で安心して暮らすサポートを

### 吹田がん情報コーナー

毎月2回、吹田市役所1階ロビーにて「吹田がん情報コーナー」を開催しています(後援:吹田市民病院)。費用も無料で、がん患者やその家族をはじめとする、一般市民に「がん」に関する様々な情報を提供しています。

活動が生まれたきっかけは、「吹田みんなの健康展」に参加した際、「がん」に関する情報を求めているが、探し方や情報の取捨選択に悩んでいる方々に出会い、これは今後ますます高齢化していく中で社会全体の課題ではないかと気づいたことです。そこで、他市の先進事例を吹田市へ情報提供・提案し、市役所で実施できるようにしました。

「吹田がん情報コーナー」での活動を始めて2年弱、今後はこのコーナーの活動を定着させること、また、吹田市市民の健康展に参加した際、「がん」に関する情報を求めているが、探し方や情報の取捨選択に悩んでいる方々に出会い、これは今後ますます高齢化していく中で社会全体の課題ではないかと気づいたことです。そこで、他市の先進事例を吹田市へ情報提供・提案し、市役所で実施できるようにしました。

事例の詳細をご紹介!アクセスはコチラへ→  
<http://suita-koueki.org/cancerinfo06/>

## 事例7 地産地消でつながるスマイル朝市(\*\_\*)

### 吹田元気農家とハピスマ朝市 Inさんくす夢広場

「地産地消」「障がい者が安心して暮らせる地域づくり」を目的に開催されている朝市です。

平成26年度は、HAPPY&SMILE(吹田市障がい者授産事業所常設展示販売店)で実施されましたが、平成27年度から、より市民に知ってもらえる取組みとして、JR吹田駅のさんくす夢広場で開催しています。

朝市は、農業振興の一環として、まち産業活性化部の提案で始まり、吹田市農業振興研究協議会が共催となり、豊津公園と吹田市役所、JR吹田駅さんくす夢広場で開催されています。その内、さんくす夢広場では、障がい者福祉事業所のHAPPY&SMILE、吹田さんくす名店会商業協同組合が、イベントの開催に至っています。また、HAPPY&SMILEがある米通商商店会が共催で関わっています。

吹田市の玄関口でもあり、市民の憩いの場でもあるJR吹田駅前広場で、都市農業の大切さを知ってもらいたい!「障がい者の雇用を生み出したい!」「集客に繋がるイベントをより多く催したい!、来場者に安全なものを楽しんでもらいたい!」。そんな想いが重なり、地元の人達と野菜や手作りパンなどの朝市を開き、市民に笑顔を届けています。

事例の詳細をご紹介!アクセスはコチラへ→  
<http://suita-koueki.org/hsmarket07/>

## 事例8 障がいを持つ子ども達が安心して暮らせ、自立できる社会に!

### 発達障がい児の親のつどい“なの花”

発達障がいを持つ子どもと、その家族をサポートする取組みをしています。発達障がいを持つ子どもは、市内で点在している状況にあり、孤立しやすい状況に陥り、親の悩みや子どもの特性について学び、日頃の悩みやしんどさを話し、分かち合う場を運営しています。

元々は市内の障がい児通園施設に通う母親が中心になって活動を始め、心療内科・精神科のクリニックが立ち上げた特定非営利活動法人と結びついて、現在、その活動の母体となり、障がいへの理解を深めるため、病院と連携を固めながら活動を行っています。また、市内の他の発達障がい児に関わる団体とも連携し、共同で子ども達とのキャンプや、広く一般にも参加を呼びかける講演会を開催しています。

発達障がい児の権利や安心して生活できる環境づくりをめざすとともに、子どもたちが自立し働いて納税者となり、社会に貢献できるよう育てていかなければいけません。そんな将来への想いを胸に、活動を展開しています。

事例の詳細をご紹介!アクセスはコチラへ→  
<http://suita-koueki.org/pananohana08/>

## 事例9 コンビニが、地域をつなぐお茶の間に!

### 栄えるカフェ IN 吹田

JR吹田駅近くの栄通り商店会にあるファミリーマート2階の「イトインスペース」に平成27年11月30日にオープンした「市民カフェ」です。ファミリーマートのコミュニティ型の実験的な店舗として、NPOや商店会が企画した様々なイベントを開催しています。

また、NPOの会議の場としても利用されています。「市民カフェ」の運営は、NPO法人市民ネットすいた(以下、CNS)とファミリーマートの提携により、CNSが利用の窓口となっています。利用希望団体は、CNSに問い合わせて登録の上、利用ができます。個人の利用は登録不要となっています。

事業のきっかけは、地元商店会の栄通り商店会が、事業者のファミリーマートに、市民活動の中間支援を行っているCNSを紹介したことです。より気軽に利用できる「地域のお茶の間」として、どのように運営していくかを利用団体も交えて意見交換しています。

事例の詳細をご紹介!アクセスはコチラへ→  
<http://suita-koueki.org/sakaerucafe09/>

## 事例2 府民協働型モデルパークの構築!

### 万博NPOセンターの取組み

昭和45年に大阪万博が開催された跡地は、現在、万博記念公園として市民の憩いの場となっていますが、その公園の維持管理等にNPO等が活躍し、万博NPOセンターは、そのような活動団体を支援しています。

10年以上前から、環境に関する様々な団体に関わり、男女問わず、障がいのあるなしに関わらず、幅広い年代の人々がボランティアとして参加しています。

また、様々な団体の協働により「社

会貢献ができる。学べる。様々な交流ができる。健康になれる。」公園運営を図っています。

環境活動はかつて、お金がかかり経済活動の妨げになるという認識がありましたが、現在では環境が成長戦略の一つとなっており、国際博覧会が行われた日本の高度成長の象徴とも言える場所で、社会実験的な取組みを進めてきました。

世界で最も早く超高齢社会を迎え、人口減少となったわが国において、環境ボランティアは高齢者や障がいのある人々が参加することで、それが担い手の健康増進や生きがいづくりを促す。そして、地域のソーシャルキャピタル(地域のつながりが育む様々な恵み)を育むモデルパークとなる。そんな想いで活動を展開しています。

事例の詳細をご紹介!アクセスはコチラへ→  
<http://suita-koueki.org/expopark02/>

## 事例4 老後も安心して暮らせる地域づくり

### 認知症サポーターやオレンジリングの周知

おれんじの和は、東山地区の認知症サポーターのグループです。認知症サポーターフォローアップ研修の受講者のうち、地域での活動意欲がある人々を対象に行われた「認知症サポーター交流会」(主催:吹田市福祉部・吹田市地域包括支援センター、共催:ラコルタ)をきっかけに誕生しました。

認知症についての理解を深める講演会や、認知症サポーターの養成講座を、公民館講座として地域諸団体の協力を得て開催しています。

また、吹田徳州会病院と併設の介護老人保健施設「吹田徳州苑」のボランティア喫茶に、月に2〜3回参加しています。ゆくゆくは、地域の中で介護に関わる人や関心のある人が気軽に交流できるような場をつくりたいと、思っているため、ボランティア喫茶に参加させてもらうことが、とても勉強になっています。

自分が認知症になっても、地域のなかで支え合い、安心して暮らせるような地域づくりをしたい。おれんじの和をきっかけに、東山に住んでいて良かったと思える地域にしたい。そんな想いで活動をしています。

事例の詳細をご紹介!アクセスはコチラへ→  
<http://suita-koueki.org/orangering04/>

## 事例10 特定非営利活動法人 なの花

発達障がい児の親のつどいや学習会、講演会等、様々な催しを行っています。

事例の詳細をご紹介!アクセスはコチラへ→  
<http://suita-koueki.org/pananohana08/>